

平成 25 年度 第 1 回日本手術看護学会九州地区研修会報告

日時：平成 25 年 8 月 25 日（日） 13 時 30 分～16 時 30 分

会場：南近代ビル 7 階 2 号室

テーマ：「今、改めて医療安全について考える」

さらなる取り組みに向けて現場の見直しと今後の課題を検討

～測ることができないものは良くなる～

と

「WHO Patient Safety Curriculum Guide」

講師：九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座

鮎澤純子先生

猛暑続きで一雨欲しいなと思っていたら、この日に限って激しい豪雨となり、参加者の交通を心配していましたが、参加数 100 名以上の盛大な研修会となりました。参加者の 60% 以上は看護師経験 10 年目以上の看護管理者やリーダー、ベテラン看護師で、医療安全に対する関心の多さを感じました。

近年の医療関係訴訟の動向や事故調査の目的と視点、そしてヒューマンエラー、ノンテクニカルスキルなど医療安全に関する幅広い内容や、「安全管理そして質管理へ」と繋げるために大切な原則として「測ることができないものは良くなる」という言葉を先生は繰り返し話されました。

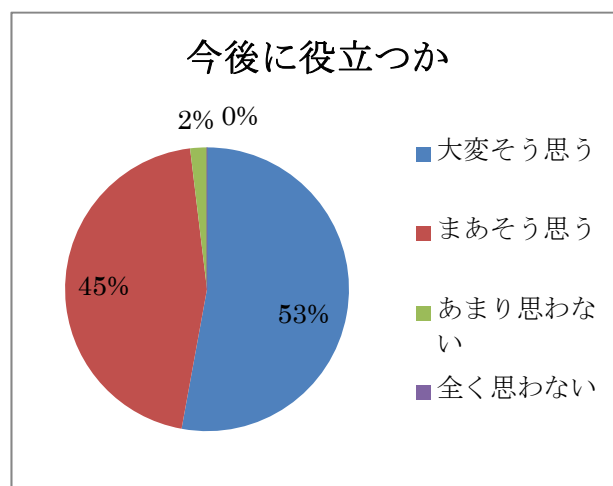
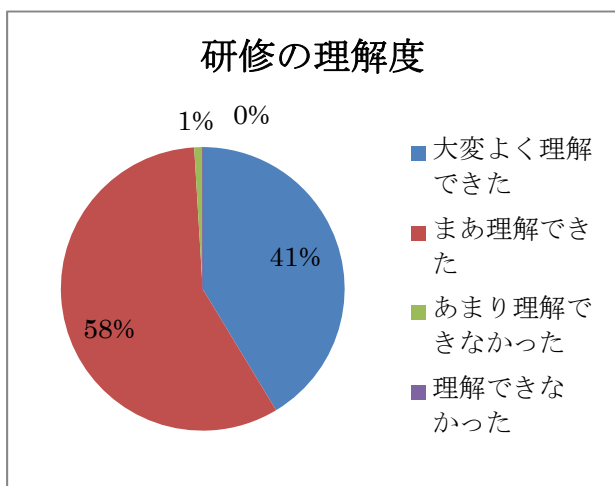
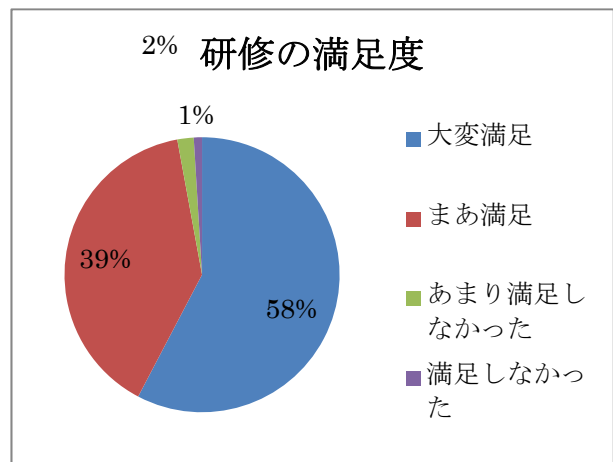
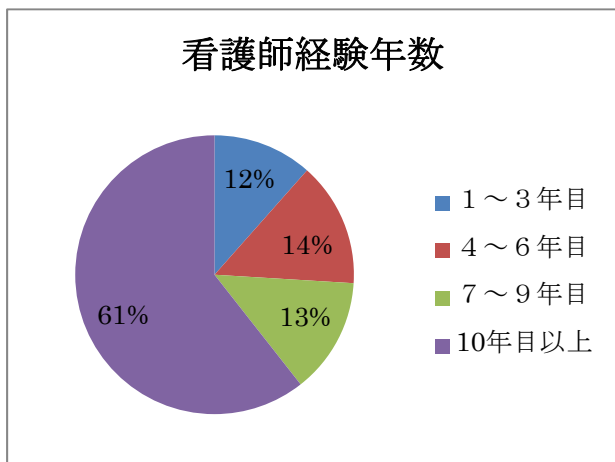
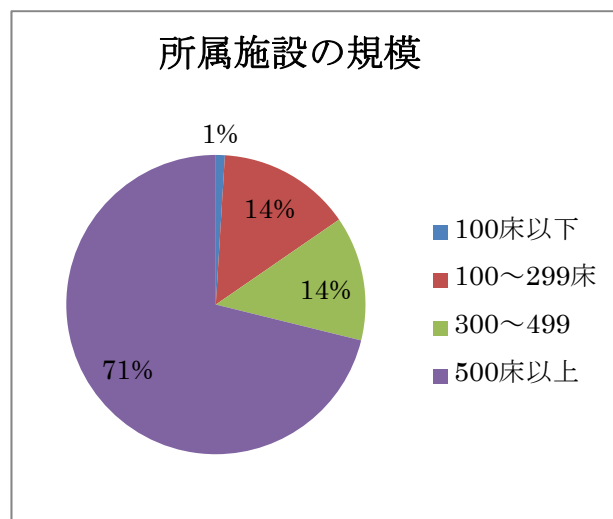
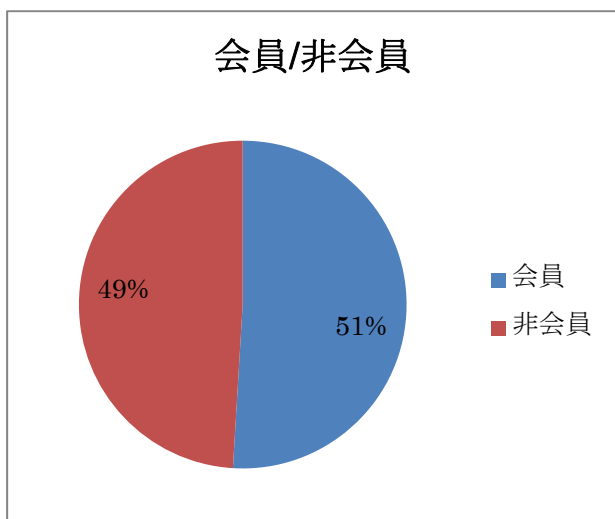
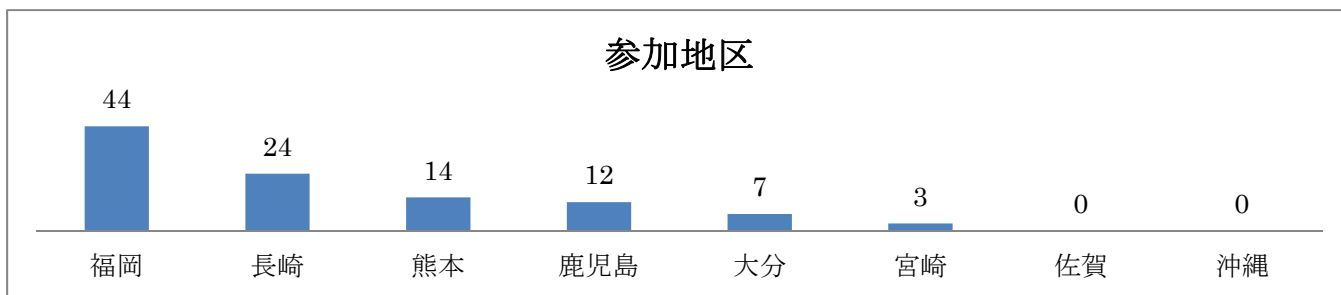
医療安全についてはこれからもいろいろな取り組みが進んでいく中、成果を上げ、その成果を視えるようにし、「そして前より安全になったのでしょうか」という問いに「なったんですよ。例えば手術については・・・」と答えられるよう、私たち手術室看護師は医療の安全と質、手術の安全と質を語っていかなければならないと思いました。

テンポ良く熱く話される鮎澤先生の 3 時間の講義は、あっという間に過ぎてしまいました。私たちはこの研修で学んだことをしっかりと現場で活かして行きたいと思います。

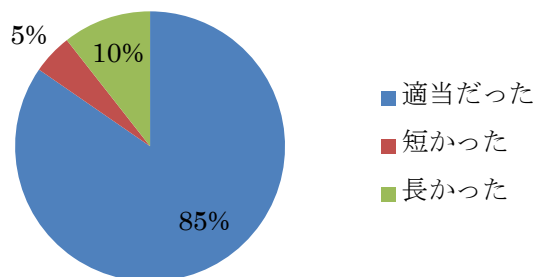
たくさんの方に参加していただきありがとうございました。



アンケート回収総数 104 枚



研修時間は適当だったか



今後「手術室における医療安全に関する研修」を受ける機会があれば、どのような内容や方法を希望しますか。

- ・ 周術期肺塞栓症の防止、SSI対策、災害看護、麻酔看護
- ・ 他職種との連携という視点での医療安全（手術室ならではのチーム医療）
- ・ タイムアウトについて、WHOのチェックリストの活用・導入
- ・ 針刺し防止、器械・器材類の取扱い、コミュニケーション技術
- ・ RCAの方法を解説及び実践しての分析など
- ・ 臨床で起きているインシデントやそれを防止するための講義
- ・ グループワークを取り入れての意見交換
- ・ 火災時の対応方法について
- ・ 実際の現場での問題を意見を出し合って今後の参考になる場を作ってほしい

その他どのようなテーマや内容の研修会を希望しますか

- ・ 医療における質評価
- ・ 手術室看護（褥瘡予防、特殊体位、体温管理）
- ・ 手術看護記録
- ・ 医療安全に対する考え方
- ・ 滅菌と洗浄について
- ・ チーム医療について
- ・ 手術室看護師教育（新人教育、他部署からの異動者教育）
- ・ 手術室看護でできること